

● ポスネットは……………生活の足

第二郵便株式会社の取り扱い品種は（第一期・一方的配達）新聞・広報・チラシ・雑誌・カタログ・DMその他各種印刷物です。現在法律で禁止されているハガキ・手紙（信書）よりDMに市場性を置いています。

FAX・電子メール・インターネット始め多様なマルチメディアで早く安く確実に届き信書はすでに形骸化し文化的なものになりつつあります。

第一期における各種印刷物の配達によってネットワーク配達を社会生活に不可欠なものにしたい。これが当社の目指すネットワーク化する社会に適した配達網です。当社ではこのネットワークによる配達網のネーミングを簡略して「ポスネット」と呼びサービスマークとして商標登録済みです。（ヤマトの宅急便に当たる）

このポスネット構想が成功すれば以後第五期迄の計画が付加価値のようにやりやすくなります。これが私達が実験で理解出来るようになった近未来への計画と目標となっている“衛星便”そして“インターネット便”です。

○第二期 双方向配達（リサイクルの回収及集配のサービス）

○第三期 マーケティング配達（データベースに基づいた提案とより効率化を図り安くする）

○第四期 情報・多様化の配達高齢化に対応した多用なシステムで生活必需品へ比重を上げる

○第五期 ハイテクを駆使し提携によって無店舗販売、世界市場化に対し内外価格高に配達面で構造改革を進める。

スタートもしていないのに本当に可能なのか？色んな困難が

伴うが可能にするのは“ネットワーク”の構築にかかっています市場を点や線ではなく面に対応し同時性・多様性・機動性といった離合集散のシステムが可能とする柔軟性にあります、このネットワークの特徴が即当社の求心力であり生命でもある、第一期の重要性がこの点にあり郵便配達・新聞配達・宅急便・赤帽に対し“似て非なる”ところです。

○問題は価格（質を落さずに安くする）

スタート時は全て郵便価格の3分の2にする。量による割安、第三種郵便による割安でも料金の3分の2です。

○立上りは来春、新宿区からです。そのための基礎的データが出来上ったところです。

○各種印刷物は本部からワーカー宛届けられる、配達物の開拓も本部の仕事です。

○本部は専門の実務者集団による小さな本社で多くの人かつては国家的な人からも支持指導を頂いている。

当社ではこの配達サービスを独自性のため“ポスネット”と呼んでいる、外部では具体性に欠け理解されにくいので配達サービスと言っています。近年に於ける電気通信によるハード・ソフトの進歩によって世界同一市場化の参入にパソコンをもった個人が益々主体的になって行く中で配達面でも多様なニーズに対応をしなくてはならなくなってきておりポスネットはこの分野の1部とはいえ「時流に従って時流を制する」着眼と軌道上にあります。具体的には

- 1 地域生活者は安く多用なサービスが得られる、
 - 2 顧客はPR印刷物が安く正確に出来るようになり、
 - 3 ネットワーカーは自宅・自由・自立へ向かい、
 - 4 地域社会にとって多様な配達で活性化し、
 - 5 国家にとって雇用・省資源化・民営化に役立ち、
 - 6 フランチャイジーは地域を代表し権益を有し本部の開発が自動的に受けられ、
 - 7 本部（当社）は相互依存の共生になっている。
- さらに社会的に支持されるものとして5つ挙げられる。

衛星便

ポスネット®

インターネット便

第二郵便株式会社

今日的キーワードであるネットワークによるビジネスを経営資源として「ポスネット」システムに集約する迄に長い年月の研究・調査・実験のテーマが掛りました。

当社に於けるネットワークとは「網状組織による同時配達」ということになります。ワーカー各自は担当エリアをキチンと果す事が全体として“1人が万人のために万人は1人のために”成っている共生のシステムです。ネットワークは「ソフト資源」であり「ソフト経営資源」であり「ソフト社会資本」でもあります。

知識についてP・F・ドラッカー氏は「第一の資源」といい、A・トフラー氏は「中心となる資源」といっています。ソフトが資源という発想の価値観は当社の場合「ポスネット」に当たりポスネットとは「情報・労働集約型ネットワーク配達」の意味です、この業界でナンバーワンにはなれないがオンリーワンならやれる。

寄稿 浦上 登